

変更後の認定事業適応計画の内容の公表

1. 変更認定をした日付

令和5年7月12日

2. 変更後の認定事業適応事業者の名称

サントリー株式会社

3. 変更後の認定事業適応計画の内容

(1) 事業適応に係る事業の目標

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の予測では、今世紀末時点で、地球全体で平均気温が0.3～4.8℃上昇すると予測されており、その結果として地球環境に大きな影響を及ぼすと推測される。「人と自然と響きあう」を使命に掲げる弊社グループにとって大切な経営基盤である地球環境を守るため、「環境ビジョン2050」にて、2050年までにバリューチェーン全体で温室効果ガス排出の実質ゼロを目指している。また「環境目標2030」では、自社拠点で50%、バリューチェーン全体で30%のGHG排出削減という環境目標を掲げている。

この目標に向けて、生産効率向上を含めた省エネルギー活動の推進、再生可能エネルギーの積極的な導入を通じてCO₂などの温室効果ガス排出の削減に努めていく。

(2) その事業の生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標

2022年度より事業適応を開始し、2024年度（目標年度）までに炭素生産性を77.2%向上することを目標とする。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標

2024年度（計画終了年度）に経常利益を計上することを目標とする。

(4) 事業適応の種類

エネルギー利用環境負荷低減事業適応

(5) 計画の対象となる事業（日本標準産業分類における中分類名称及びその分類コード）

飲料・たばこ・飼料製造業（10）

（選定の理由）

計画の対象となる事業は酒類を製造するものであるため。

(6) 事業適応の具体的内容

計画初年度である 22 年度および 23 年度に、サントリー株式会社大阪工場での生産工程効率化等設備の導入を行う。

【22 年度】

- ・ 主に大規模な数量で海外輸出しているスピリッツ、ウイスキー製品を高速で高効率で製造できる瓶詰ラインを新設する。これにより既存の低速瓶詰ラインでの同製品製造に比べて、電力効率が 223%となり、1 本あたりの電力消費量削減に伴い CO2 排出量が削減される。付加価値額については、新設ラインによるパッケージング能力増強により、基準年度に比べ製造数量が増加し、付加価値額が増加する。
- ・ 大規模な数量で製造しているリキュール製品液調合設備を増強し、既存より大ロットで高効率でのリキュール製品液製造を実現する。これにより既存の小ロットでのリキュール製造に比べて、電力効率が 355%となり、単位製造量あたりの電力消費量削減に伴い CO2 排出量が削減される。付加価値額については、大ロットでのリキュール製造能力増強により、基準年度に比べ製造数量が増加し、付加価値額が増加する。

上記の CO2 排出量削減と付加価値額増加により、炭素生産性向上が見込まれる。

【23 年度】

- ・ 大規模な数量で製造しているブレンドプロセス設備の機能を再編し、既存より大ロットで高効率なスピリッツ・ウイスキー製品液製造を実現する。これにより既存の小ロットでの製造に比べて、電力効率が 134%となり、単位製造量あたりの電力消費量削減に伴い CO2 排出量が低減される。付加価値については、基準年度に比べ製造数量が増加し、付加価値額が増加する。CO2 排出量低減と付加価値額増加により、炭素生産性向上が見込まれる。

これに加え、22 年度期中より、購入している電力量のすべてを再生可能エネルギー由来の電力に切り替えることで、電力使用に伴う CO2 排出量をゼロにして炭素生産性を向上させる。

(7) 事業適応の開始時期及び終了時期

開始時期 2022 年 1 月、終了時期 2024 年 12 月